

■「効果の見える治水事業」
愛媛県 成瀬海岸高潮対策事業
『愛南町御荘地区沿岸の津波対策について』

愛媛県南予地方局愛南土木事務所長 日野 茂



■はじめに

愛媛県愛南町は、県の最南端に位置しており、自然環境に恵まれた地域です。特に西側は美しい宇和海に面し、その恵みを受け、水産業や観光がとても盛んな町ですが、近い将来、南海トラフを震源とする巨大地震の発生が予測されており、この愛南町も津波による大きな被害を受ける恐れがあります。

県では、背後に市街地を有する御荘地区の3海岸（御荘港、長崎、成瀬）を対象として、海岸工学や自然環境の専門家や地域の漁業・防災関係者で構成する「愛南町御荘地区沿岸津波対策検討委員会」を平成27年11月に立ち上げ、地域が必要とする堤防等の整備方針についての議論を進めています。

■段階的整備を基本とした整備方針について

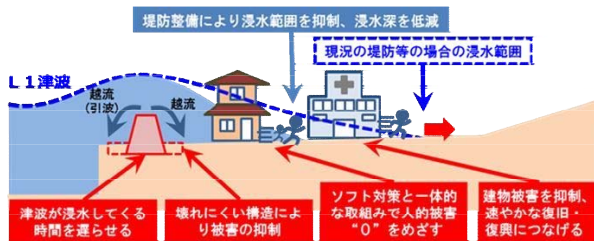
L1津波を完全防護するためには、地盤から高さ5m程度の堤防を建設する必要があり、堤防の巨大化に伴い、日常生活や景観・自然環境への影響や整備期間の長期化が懸念されることから、検討委員会では、「段階的整備」を基本とした整備方針が提案され、「第1期整備」では、早期に達成すべき目標を設定したうえで、地震直後の広域的な地盤沈下分を補う高さまで先行して堤防を整備することが示されました。

なお、「第1期整備」では、地震直後の津波浸水時間を遅らせ避難時間を確保することや、堤防を粘り強い構造とすることによって得られる津波減衰効果による浸水被害の抑制を目標としています。

■地域の合意形成について

御荘地区の整備延長は約4kmにも及び、堤防の整備に伴い沿岸部の環境が大きく変化することから、整備方針については、地域の合意形成を図ることが必要です。

このため、検討委員会では、地元住民からの意見を広く集めるため、自治会単位での住民説明会、地元中学校や高校への説明会、関係地域の全世帯を対象としたアンケート調査などを行っており、今後、寄せられた意見を踏まえて最終的な整備方針を定めていくこととしています。



第1期整備のイメージ



津波対策検討委員会の様子

■愛南町における地震・津波対策

愛南町長 清水 雅文



＜愛南町の概要＞

本町は、愛媛県の南端に位置し、南宇和郡の旧5町村（内海村、御荘町、城辺町、一本松町、西海町）が合併して誕生しました。

南は黒潮踊る太平洋を望み、西は豊後水道に面している自然環境に恵まれた地域です。北部には四国山脈から分岐した一本松地域の篠山支脈があり、ここから発する僧都川の流域に平野部が開け、この平野部に御荘地域、城辺地域の市街地が形成されています。

また、内海地域、御荘地域、城辺地域及び西海地域の海岸部は「足摺宇和海国立公園」に面し、豊かな自然により水産業や観光事業に恩恵を受けています。

＜防災への取り組み＞

今後30年以内に70%の確率で発生するとされる南海トラフ地震ですが、差し迫る被害想定は最大震度7、御荘湾での最大津波高約9mとなっています。

東日本大震災では巨大な津波により、沿岸部が壊滅的な被害を受けたことから、本町は津波からの避難を中心に啓発してきました。しかし、熊本地震での強い揺れにより倒壊した住宅の下敷きになったり、土砂崩れに巻き込まれるなどの被害があったため、まず強い揺れから命を守ることを第一段階、助かった命をつなぐため津波からの避難を第二段階と位置づけ、防災フォーラムや防災学習等での啓発を行っています。

本町では、津波対策として海拔20m以上の地点約170ヶ所を一次避難場所として指定し、防災灯や防災倉庫を設置するほか、学校や住宅等から避難するための避難路整備として、手すりの設置や舗装工事を行っています。

さらに、その後一時避難所としての使用が想定される学校へは、使用するルールの作成や避難所資機材の整備を行っています。

備蓄物資については、人口の10%の3日分を目安に備蓄をしています。

＜成瀬海岸高潮対策事業への期待＞

愛媛県で計画されている御荘地区沿岸の津波対策事業については、最大の津波を想定した場合、完全に防御できるものではありませんが、津波浸水時間を遅らせる効果や浸水被害区域の抑制が図られることから、かけがえのない町民の命を守るために重要な事業であり、前述した本町が行うソフト事業との相乗効果により大きな力となるものと期待しています。さらに、高潮対策にも効果を発揮することから、事業の早期完成を願っています。

